

# 令和2年度（一財）日本建設情報総合センター 研究助成決定

令和2年度の研究助成については、7月29日に学識経験者を含めた審査委員会において厳正な審査を行い、応募があった9件のうち4件に対して研究助成を実施することを決定しました。

今年度は7つの対象課題を設定し、助成の対象となる研究を募集しました。特に応募が特に多かったのは、「ICT等に関する技術（AI、5G/IoT、VR、AR、MR、センシング技術、画像処理技術等）の建設分野における活用に関する調査研究」でした。この課題への応募は、昨年に引き続き最多となりましたが、これは近年、幅広い領域で注目を集めているAI（人工知能）やIoT（Internet of Things）のような技術革新の成果を、建設分野にも導入しようという意識の高まりが背景になっているものと考えられます。

応募者の所属については、大学等の教育機関が大部分を占めており、民間企業からの応募は1件に留まりました。今後は、独創性・新規性・発展性を持ち、将来の利活用が期待されるテーマに取り組む研究者が、所属組織に関わらず、テレワーク等の環境からでも広くご応募いただけるように、申請書類の改善（一部押印の省略等）への取り組みを検討してまいります。

また、平成29年度から若手研究者枠（35歳以下）を設定しており、これまで3件の研究に助成を実施しております。今年度は残念ながら採択には至りませんでした。若手研究者による今後の研究の発展・充実を特に望みます。

なお、採択された研究については、JACICが主催する成果報告会だけでなく、国内外を問わず、広く学会等において充実した成果を発信し、建設情報システムの発展に大きく寄与することを期待します。

## 【審査委員会の委員】

大橋 正和（中央大学常任理事）

島崎 敏一（日本大学名誉教授）

月尾 嘉男（東京大学名誉教授）

深澤 淳志（理事長）

伊藤 英隆（理事）

尾澤 卓思（理事）

期間	研究助成対象者（敬称略）	研究テーマ
2年	東京大学大学院 工学系研究科 特任准教授 全 邦釘	既存橋梁の2次元図面の意味解釈を通した3次元CIMモデル自動生成手法の提案
1年	函館工業高等専門学校 社会基盤工学科 准教授 山崎 俊夫	国土交通データプラットフォームの構築に資する広域地形モデルの制作に関する、テレワーク時代に対応可能な業務モデルの提案
1年	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 杉本 知史	無線センサネットワークシステムを応用したIoT技術による屋外多点計測手法の実装のための調査研究
1年	名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授 秀島 栄三	人間中心設計的アプローチによるBIM/CIM人材育成過程の設計と検証